

第7回 砂防・土木技術者のための奥飛騨研修会

2013年7月6日～8日、穂高砂防観測所において「第7回 砂防・土木技術研修者のための奥飛騨研修会」が開催されました。2007年から毎年実施されるこの会は、NPO 法人山の自然文化研究センター主催、公益社団法人砂防学会共催、京都大学防災研究所流域災害研究センター協力によるもので、広く土砂災害や溪流保全に関わる技術者・研究者・学生が集い、組織を超えて意見交換を行う貴重な機会となっています。今回は、民間企業から51名、国土交通省関係13名、大学関係9名、学生24名の総勢97名が集まりました。

1日目は、午後に中尾公民館に集合し、水山高久教授（京都大学農学研究科）による「流砂観測の世界的な展開」、伊藤隆郭氏（日本工営株式会社中央研究所）による「ロードセルを用いた流砂観測」、小川紀一郎氏（アジア航測株式会社代表取締役）による「航空レーザー計測技術の進展とそのデータ活用」の話題提供で、講習会を実施しました。

2日目午前は、グループに分かれ、順番に「ヒル谷土砂排出装置パイロット実験・礫間浄化実験」、「足洗谷流砂観測現地実験」、「砂防に関連する新観測技術のデモンストレーション（土壌水分計付貫入計、地中音測定装置）」の見学を行いました。また、現役の土木・砂防技術者と学生の意見交換会が中尾公民館で開かれ、実務に関する活発な質疑応答がありました。

連日の大雨により危険を伴う為、午後から予定されていた土砂生産・流出および溪流環境に関する現地研修は中止となりましたが、可能な範囲で、道観松堰堤や左俣谷・右俣谷の砂防施設見学を行いました。

最終日は、国土交通省神通川水系砂防事務所の案内で、先月の梅雨前線により被災した新穂高の施設の復旧状況や、蒲田川流域の地獄平砂防堰堤、平湯川流域のしのぶ砂防堰堤を見学しました。

悪天候にもかかわらず、参加者は施設や観測地点を精力的に回り、随所で熱心に意見交換し、交流を図っていました。

（流域災害研究センター 宮田 秀介・広報出版企画室 竹内 ふき）



集合写真



講演会の様子



ヒル谷土砂排出装置の見学



地下流水音を聞く
(地中音測定装置)



土壌水分計付貫入計のデモンストレーション



足洗谷流砂観測



左俣谷・右俣谷の砂防施設



地獄平砂防堰堤



しのぶ砂防堰堤
(堤体の中の管理用通路から流れ
落ちる水を見ることが出来る)